

## 私は忘れない

沖縄県立読谷高等学校三年 兼謝名 彩音

赤瓦を照らす真っ赤な太陽

青く透き通った海

くもりのないどこまでも続く空

緑豊かな島でおじいは育った

そんな美しい島に突然闇が襲ってきた

赤い炎は家を奪い

青い海は血の色に染まり

くもりのない空からは鉄の塊が落ちてきた

おじいの知っている笑い声は叫び声や泣き声に変わった

おじいの知っている笑顔は消えていった

おじいが知っている島は焼け野原

何一つ残っていない

おじいはつぶやいた

「沢山の命が奪われてしまった」

これが戦争

おじいが語ってくれた戦争

話を聞いたからこそ分かる

おじいの見えなかった心の傷

学生だったおじいは怖かっただろうな

青春時代が暗闇で不安だっただろうな

おじいが流した大粒の涙

私は忘れない

おじいの語った恐ろしい戦争

私は忘れない

多くの命を奪った戦争

私は忘れない

それが私なりの平和への一歩

世界のどこかで今日も

砲弾の音が鳴り響き

苦しんでいる人たちがいる

人と人同士が憎みあってはいけない

国と国同士が憎みあってはいけない

私たちが憎むものは「戦争」だ

互いに歩み寄れば自然と平和に繋がっていくのではないだろうか

お互いが歩み寄ること

それが平和を築く

二度と多くの命が消えてしまわぬように